

南こうせつ

南こうせつコンサートツアー2020～いつも歌があった～

2020年11月6日(金)
福岡サンパレスホテル&ホール

いつも歌があった。
楽しい時も悲しい時も。
そして、これからも。

文：山崎聡美 写真：ハラエリ



開演時刻を迎えた客席から自然と手拍子が起こり、BGMと客電がほぼ同時に落ちた。朗らかな弦のフレーズが響き渡り、その音に導かれるように幕が開く。大きなアコースティックギターを背景に、その人は然りと抱いた愛器を奏で歌いだす。変わらぬ、透き通った歌。瞬間、安堵の吐息にも似たあたたかな気流が場内に満ちるのを感じて、少し震えた。皆、この日をどれだけ楽しみに待っていたのだろう。その思いの全てを彼の歌は受け止め、さらに大きなエナジーとしてひとりひとりに還元するように丁寧に紡いでゆく。

パンデミックによって人の日常が脅かされ、暮らしが大きく変わった2020年。誰もが見えない未来を模索するなかで、南こうせつはコンサートツアーの再開を決めた。「半年以上(コンサート)を中止して…このままずっと歌わないでいくのも寂しくて。皆さんと音楽を共有することで、また明日への一歩を踏み出せるのかなと。体験したことのない状況下で、歌う。この日を忘れることはないです」。

そんな決意とともに、ユーモアたっぷりの語り口による濃厚な活動エピソードなども交えながら、2部構成・約2時間のステージに源流から現在に至る南こうせつ節を凝縮した。鮮やかな色彩とほろ苦く切ない情景を分かち合う『青春の痛み』や、アップテンポのリズムと躍動感が実に心地よい『マキシシーのために』、『Summer Angel』では「ちょっとあの時の思い出を話している?」と、昨夏海の中道で開催した野外フェス"サマ

ービクニック"に思いを馳せた。

また、トラディショナルフォークをはじめとする豊饒な音楽エッセンスがあふれだす『虹とアコーディオン』などをデビュー50周年の新作アルバム『いつも歌があった』から披露する一方、『夢一夜』『幼い日に』といった時代を越えて愛されてきたメロディアスな楽曲群を同じ熱量で届ける。盤石のバンドメンバー、——安定と信頼の揺るぎないベース&パンマスの河合徹三、バイオリンのほかパンジョー、マンドリンと多様な弦楽器でボーダーを越える佐久間順平、葉の上に弾ける水滴のような透明感と躍動感を宿すピアニスト大山泰輝——との澄んで豊かな音像がそれぞれの歌の陰影を深め、会場は多幸感に包まれてゆく。

この夜、辛抱の時間を過ごす人の根っこを支え、その眼差しを上へ向けるシーンが幾度となくあった。なかでも、「闇に包まれた世界と対峙して未来に臨む」心情を映した新曲『夜明けの風』の祈り、「中村哲氏に捧げます」と力強く歌われた『緑の旅人』の希求、そして「45年(コンサートのたびに)毎回歌ってきたけど、毎回違う」と感慨深げに歌われた『神田川』の郷愁。いずれも尊く切実で、重ねてきた喜びも哀しみも糧として「今をひたすらに生きる」ことへの一歩を踏み出させる白眉の歌だった。アンコール後、自ら鳴らした花火の音に「三尺玉の花火を想像できる人は明日への活力を創造できる人です」とエールを添える南に、精一杯の拍手と大きな手振り、身振りで応えるオーディエンスの姿は、受け取った歓喜のかけがえのなさの現れでもあったろう。



矢井田 瞳

この先もずっと、
自分が音楽でできる役割を果たしていきたい。

取材／文 前田亜礼

「やっと会えたねー」。10月末に行われたデビュー20周年リリクスライヴ『Sharing』では、晴れやかな笑顔を見せ、オーディエンスを前に熱量の高いステージを披露した矢井田 瞳。節目を飾った11曲目となるオリジナル・アルバム『Sharing』は、カバー曲や初めて提供を受けた曲なども交えた全9曲を収録。制作前の1年余りは、ヴォーカル・デュオの高高・takatakaと共に、アコースティックギターと歌の世界に向き合ってきた彼女。今作は、彼らやGAKU、バンド・メンバー…音楽愛を共有してきた仲間と培ってきた“今のヤイコの音楽”が最大限に表現されている。「前作、前々作がセルフ・カバー作品だったので、久しぶりのオリジナル・アルバムなんです。今どんな自分を通して音楽で何を表現したら、いろんな人の日常に寄り添えるかということを中心に、もっと自由に、その曲々が呼んでいる音を探っていた作品です」。

バンドでリアレンジした疾走感溢れる『いつまでも続くブルー』に始まり、リモートの短期間で作り上げた胸に響くメッセージ・ソング『あなたのSTORY』。続く高高・takatakaのカヴァー曲『It's too late?』は「聞くたびに“よし、がんばるぞ”って燃えるし純粋に好きな曲。高高とは性別も年齢も違うけれど、その曲が持つ核心の部分は共有できたかな」と微笑む。中盤はちょっぴりシニカルな視点で描いた『かまってちゃん。』でフックを効かせ、20

周年イヤーだからこそ原点に立ち戻った関西弁じりの楽曲『ネオンの朝』がヤイコらしさを引き立てる。

後半は躍動感たっぷりに、自身が奏でるティンホイッスルなど多彩な音色を取り入れながら広い世界観を表した『はだしのダイアリー』、自然体で生まれたGAKUとの共作『きつとJust fine』と続き、エンディングへ。「今作は内でなく外に向けたものにしたかったです。“Sharing”には分け合う以外に役割という意味もあって、自分が音楽のできる役割をこれからも探して果たしていきたい、そんな決意も含んでいます」。

雲間から光が射すように、エネルギーに満ちた楽曲が気持ちを上向きにさせてくれる、ヤイコの音楽。再びライヴで会えるその日まで、友人のようにそばにいて、あなたを優しく包み込んでくれる。



New Album

Sharing

青空レコード / VAA
NOW ON SALE

前作『DOUBLE STANDARD』から、わずか7ヵ月。11月18日に最新アルバム『PORTAS』(ポルタス)をリリースした中田裕二。ポルトガル語で「門、ドア」の意味を持つタイトルは「良くも悪くも、人生はいろんな門をくぐっていくようなものだ」との考えから付けたという。まさに1年前の今頃は想像もしていなかったポスト・コロナの新世界。その中で、多くの人がそうであるように中田自身もまた、新たな価値観、新たな生活様式の下、さまざまな門(それも「初めて」の門)を日々とくぐり続けている。もちろん、本作におけるリモート・レコーディングへのチャレンジもその一つだろう。これまでとは違ったオンラインでのやりとりに、戸惑いはなかったのか?「スタジオで直接コミュニケーションを取るのに比べると、細かい部分のやりとりなどはさすがに面倒でしたが、今回参加して頂いた皆さんとは信頼関係ができていたので、特にバラード曲のパートごとのアレンジなど、各自にお任せする部分も多かったです。しかも、皆さん2~3日で録り終えてすぐにデータを返して下さったので、思いの外スムーズに進めることができました。歌詞についても「本

作のテーマが、まさに“コロナ禍のこの時代を人はどう生きていくか”だったので、最初から“メッセージ性は強くなるだろうな”とは思っていましたが、ただ、押し付けがましくなく、ナチュラルに響く言葉。リアリティも比喩もありつつ、ただただフラットに自分の立ち位置において素直に表現する。計算、というよりは、自分の皮膚感覚に近い部分で作ってほしいと思って書きました」と軽やかな口調で振り返る。そんな中田にとっても“待望の”全国ツアー振替公演がいよいよ来月1月、福岡を皮切りにスタートする。「まだまだ心配の尽きないこのご時世ですが、少しずつでも皆さんに音楽を届けていくことが僕の仕事なので、一緒に楽しい時間を過ごせたらなと思っております。もちろん(新型コロナウイルスに対する)感染対策もしっかり行いますので、是非、お越しください!」。ただし、今回はバンド編成ではなく、単独での弾き語り仕様。それだけにソロデビュー10周年にふさわしい“濃厚な時間”が味わえそう。是非、期待して待っていてほしい。



New Album

PORTAS

Imperial Records
11.18 ON SALE



中田裕二

その揺るぎなきスタンダードが響く、新世界。

取材／文 なかしまさお

LIVE

詳しくは「BEA WEBサイト」をご覧ください。

中田裕二 TOUR 20『DOUBLE STANDARD』振替公演
1.10(日) 福岡 イムズホール

浜田省吾

Release information



Mini Album
In the Fairlife

浜田省吾・春嵐・水谷公生によるユニット「Fairlife」の楽曲の中から、リードトラックとして「みちくさ feat.岡野昭仁 from ポルノグラフィティ」を浜田省吾自身の歌唱により再レコーディング。その他「Fairlife」の3タイトルから、浜田省吾がヴォーカルを担当する楽曲を集めた2020年バージョンでリミックスした作品集。

Blu-ray / DVD

Shogo Hamada
Official Fan Club Presents
"100% FAN FUN FAN"
ON THE AVENUE 2013
「曇り時々雨のち晴れ」

2013年に開催されたファンクラブツアーより7月に行われたチャリティー公演を収録したライブ映像作品。公式YouTubeチャンネルに公開されている『Walking in the Rain』をはじめとするファンクラブ限定公演ならではの演出。



Attractions

TOUR 2021 "POST PULP"

1/23(土) ※2回公演
FUKUOKA
BEAT STATION

国内外から注目を浴び、福岡のニューストリートカルチャーの一翼を担う4人組。8月にメジャー1stアルバム『POST PULP』をリリース。1月のツアーは東販版。



THE COLLECTORS

TOUR 2021
"A Trip in Any Other World"

2/27(土)
LIVE HOUSE CB

加藤ひさし(Vo)の選定ベースデザインライブショーを終えたばかりのザ・コレクターズ、「別世界旅行〜A Trip in Any Other World〜」発売記念の全国ツアーがスタート。



藤川千愛

Zepp TOUR 2020-2021
『HiKiKoMoRi』

1/31(日)
Zepp Fukuoka

日常の鬱憤や葛藤から恋心までを独自のユニークな視点で歌うシンガーソングライター。コロナ禍の中、前作から7ヵ月という早さでアルバム『HIKIKOMORI』を発売。



伊東歌詞太郎

ワンマンLIVEツアー2021
「プレアデス」

3/14(日) ※2回公演
DRUM LOGOS

狐のお面がトレードマーク。動画総再生回数は8000万以上、ネット時代の希代の歌い手として存在感を示すシンガーソングライター。各日2部制で全国7カ所を巡るワンマン・ツアー開催。